

秋植え球根の楽しみ方

石川花の会 土屋 照二

球根とは基本的に芽・茎・根またはそれらの基を持った独立した個体とみなせる。球根は植物体の特殊な形をしたものだが、一般の植物のように植え付け直後の水やり等の世話が不要。球根は栄養の貯蔵器官でもあるから、乱暴な言い方をすれば、植えさえすれば発芽して大きく育って開花する。少なくとも実生栽培よりはるかに楽なので、家庭園芸に取り入れたいものだ。ここではいくつかの楽しみ方を紹介する。

1. 植えばなしで楽しむ

球根のなかには丈夫で繁殖力の強い種類があり、それらは植えばなしでも良く開花する。

落葉樹の下や庭の片隅に植え込むと、数年そのまま毎年開花する。株が込み合ってきたら、また開花が劣ってきたら掘りあげて植えつけ間隔を広げる。

スイセン シラー ムスカリ ヒアシンス スノーフレーク スカシユリ テッポウユリ
クロッカス、ハナニラ等

2. 開花時期を変えて楽しむ

・種類による開花期の違いを利用する。

チューリップやスイセンのように早生から晩生品種のあるものは長く楽しめる

・同じ種類、品種を数鉢準備し、1月中旬以降1鉢ずつ時期をずらして暖かい部屋の明るい窓辺に取り込むと、取り込んだ時期に応じて開花時期がずれて長期間楽しめる。

・パーシャル（チリング）機能のある冷蔵庫を利用して、球根を氷温（－2℃）で長期冷蔵して、翌春から夏までの間に順次植えれば、それに応じて秋まで花を楽しめる種類がある。

普通の冷蔵（5℃）1週間	⇒	－2℃長期冷蔵	⇒	普通の冷蔵・1週間	⇒	植え付け
--------------	---	---------	---	-----------	---	------

3. 少し変わった種類を楽しむ

①ボタニカル（野生種等）

小型の種類を多く含むので、小さめの鉢でつくれば広い場所がなくても多くの種類が楽しめる。また小さな容器で水栽培するのも楽しい。

チューリップ：タルダ マキシモビッチ クルシアナ クリサンタ ライックワッダー

スイセン：トリアンドリュース ブルバコジウム ジョンキラ ティタティタ

アイリス：デンティキュラータ ダンフォルディエ

シラー・シベリカ アネモネ・ブレンダ エリスロニウム・トールネンセ

②普通種と色や形が異なる

意外性で人の目を惹きつけたり、驚かれたりする。大型種を大鉢で作りして玄関前等を

飾るとインパクトがある。

チューリップ：(枝咲き) ジョゲッティ オレンジブーケ キューケンホッフ (花びらがオウムの羽状) パロット咲き (緑花) スプリンググリーン グリーンゴッテス (巨大花) ピンクインプレッション

スイセン：(ピンク花) ピンクチャーム ピンクブライド ロージーワンダー ロマンズ
大型の種類：花ユリ (アジアティックとオリエンタル) フリチラリアのインペリアリスとペルシカ 巨大葱坊主アリウム・ギガンチウム

4. 安売り球根で大量栽培を楽しむ

開花だけを楽しめば良いという場合は、多くの種類で12月末頃までに植えれば開花するので、ホームセンター等での時期遅れの安売り球根を大量に入手して豪華な花壇を造って楽しむ。

5. 栽培の要点

- ①基本的な植え方は、深さ球根2つ分、間隔球根3つ分とされるが、厳密にこだわる必要はない。
- ②地植えでは球根頂部が3cm以上埋まるように植える。鉢植えでは浅く植えるが、上に子球のできる種類や茎基部が不安定な種類は3cmほど埋める。
- ③地植え、鉢植えともに開花させるだけならかなり密に植えても大きな問題はない。
- ④冬でも水やりをする(乾燥は厳禁)。底面給水用の鉢を用いて栽培すると安全。
- ⑤球根形成には成育初期の施肥が重要で、基肥が大事になる。基肥を施さなかった場合は遅くとも年末までには施肥をする。地植えではあらかじめ土に混ぜ込んでおくか、植え付け後に土表面に各成分10%程度の緩効性化成肥料約100g/m²を散布する。鉢植えやプランター植えでは肥料は土に混ぜずに、植え付け後鉢やプランターの縁の土表面に施与する。